

# IMPORTS

Concerti y Interludes / マルーリ



Agustin Maruri (G), Robert Hyman, Paul Mathews (Vn), Steve Gleed (Vla), Michael Kevin Jones (Vc) スペイン盤 EMEC E-004

【リユート五重奏のための協奏曲へ長調、ト短調（ファルケンハーゲン）／12の間奏曲（M=トローバ）】

●弦楽四重奏+ギターという組み合わせによる室内楽作品集。ファルケンハーゲンの2曲はリユート協奏曲（とは言いながら、リユートと弦楽四重奏のための作品であるが）からの結曲であり、オリジナルのリユートパートがそのまま調性の変更などせずに弾かれている。

バロック期の探糸を飾るリユートネリストであるファルケンハーゲンは時代の過渡期を反映した作品を残している。この作品にもプレクラシワの前奏を感じる事ができる。

M=トローバの作品もギターと弦楽四重奏という珍しい組み合わせのオリジナル曲であるが、M=トローバはこの作品をギターとピアノの原稿および管楽四重奏のためのメモの形で残して逝去した。後に彼の息子がピアノ譜から弦楽四重奏に起こしたのがここで演奏されているバージョンである。この作品もM=トローバの特徴である瀟灑な軽快さ、スペインの光と影が横溢しており、耳に心地よい佳曲である。

マルーリは中庸を心がけ弦楽と合わせているが、その穏やかな演



Agustin Maruri (G) EMEC E-009 スペイン盤

## Spanish XXth Century Guitar Music / マルーリ

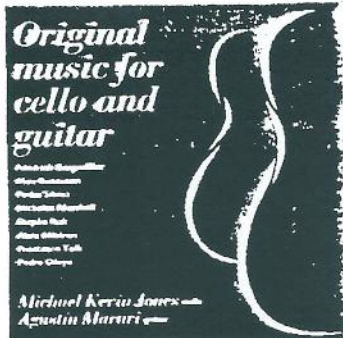
【アメリカの若い、盗賊の歌、先生、商人の娘、インテルメツォ（リヨバート）／小麦畑にて（ロドリゴ）／ドビュッシー讃歌（ファリヤ）／セレナータ・ブルトスカ、ブルガレーリ、モリネーラ、悲歌、ファルツカ、アルプハーニユラ（M=トローバ）／夜想曲、サラバンド、即興曲、ワルツのテンポで（イリシ）／「ベル・エポック」より3つの小品（ゴンバウ）／歌、ハバナ（アブリル）／センペレ（マル

ゴ）／ティエント（アルベ）／スウェーリンクの4つの見方、モンテベルディの主題による変奏曲（バスケアル）

●ギターの故郷スペインにおけるリヨバート以降の——どちらかと言えば保守的傾向の強い——現代作品を収録したアルバムであり、初録音作品も多く興味深いCD。ゴンバウなどはイエバスの初録音以来30年近く経ってしまったが、今聴いても新鮮な響きを持った斬新な作品である。

マルーリの高奏はラテンの香気溢れ、時に流されるころはあるが、感銘豊かな所帯を持っており、これらにマン気質の強い作品にはよく合っている。

Original music for cello and guitar / マルーリ



Agustin Maruri (G), Michael Kevin Jones (Vc) スペイン盤 EMEC E-001

【夜想曲（ブルグミュラー）／デュオ Op.62（パウマン）／シルエダス、ベルフィーレス（サーンズ）／冷たい風（マーシャル）／ロマンス（ラック）／リヴィアーナ（ミッテラン）／夜明け（テッリ）／カンシオン（オラヤ）】

●ギターとチェロのオリジナルのデュオ作品を集めたアルバム。

音域的な所為もあろうが、古典期のギター室内楽が盛んであった頃でもこの組み合わせの作品はほとんど見られない。しかし、その組み合わせの面白さが見直され（多分ギターの性能（音域）が上がったためであろうが）、最近になって興味を引く作品が数多く作られるようになってきた。

シューベルトのセレナーデの印象を与えるブルグミュラー、この組み合わせのスタンダードナンバーの感があるパウマンの作品（最終楽章はファリヤ賛歌であり、ゲルマンとラテンが見事に融合された良い例であろう）や、アルゼンチン・フォルクローアへの賛歌であるミッテランの作品などを二人はバランス良く共演している。

なお、オラヤは30歳にして亡くなったスペインのチェリストであり、この「カンシオン」は彼のオ



Agustin Maruri (G) フランス盤 MANDALA MAN4820

【ファンタジア（ミラン）／ソリタ K.391, K.32, K.322, K.380（スカルラッチイ）／調子のよい鍛冶屋による変奏曲（ジュリアーニ）／3つの地中海風前奏曲（C=テデスコ）／トリプティコ（M=トローバ）／甘い思い出（エルナンデス）／ハバナ（ハルツァル）／無窮動（サーンズ）／蜂蜜（リグレラス）／天使の死（ピアソラ）／夜想曲（テッリ）】

●ラテン系のギタリストに偏っているという企画者の好みはあるもののシリーズから順調に7集めが発売された。演奏者はスペインの中堅ギタリストのマルーリである。このアルバムはスペインでリリースされたLPからの再録音にミランとスカルラッチイを新たに加えてまとめられている。

マルーリは本誌No.314に「デュオ」のデュオアルバムを紹介した。ここでは彼自身の幅広いレパートリーを独演している。マルーリ——このシリーズの他の演奏者と同じように——自身の「ソリタ」により弾き通しているが、エルナンデス（ドミニカ）のオリジナルはピアノ作品である愛らしい「ソリタ」やハルツァルのハバナで示された探糸の表現は聴き物である。